



## 事例10

# 家族の介護負担軽減と過去の住宅改修のフォローアップ

### 本人家族の希望・要望

(日常生活における不便・不自由な点)

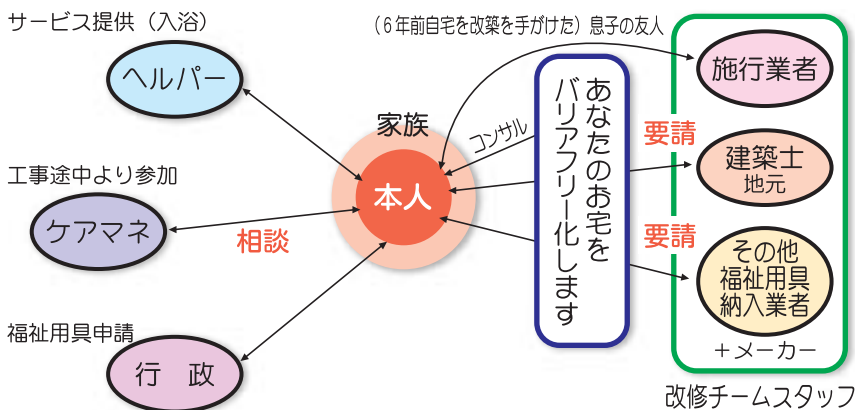
1. 自宅で入浴させたい。
2. 介護の負担を軽減したい。
3. 通院、ショートステイ利用時の移動介助をしやすくしたい。



### これまでの流れ

- 平成5年5月に脳内出血で倒れ、地域の総合病院へ入院。自宅の新築とほぼ同時期のことであった。この時点で設計内容を変更し、担当医のアドバイスにより寝室にトイレと浴槽を設置。また、入浴用にと鉄骨の梁を取付けたが、その後の方法がわからずそのままの状態であった。
- 平成5年10月に退院するも、平成6年に再発作を起こし、それまで利用できていたデイサービスも、車椅子での座位が困難になったため利用を中止した。
- 平成10年10月膀胱炎で入院、11月退院。これを機に留置カテーテルを撤去、オムツの利用となる。
- 現在は訪問看護月1回。訪問診療月1回。訪問入浴月3回。農繁期にショートステイを利用。
- 訪問入浴は社会福祉協議会のヘルパーと入浴車による。寝室の浴槽は利用できない。

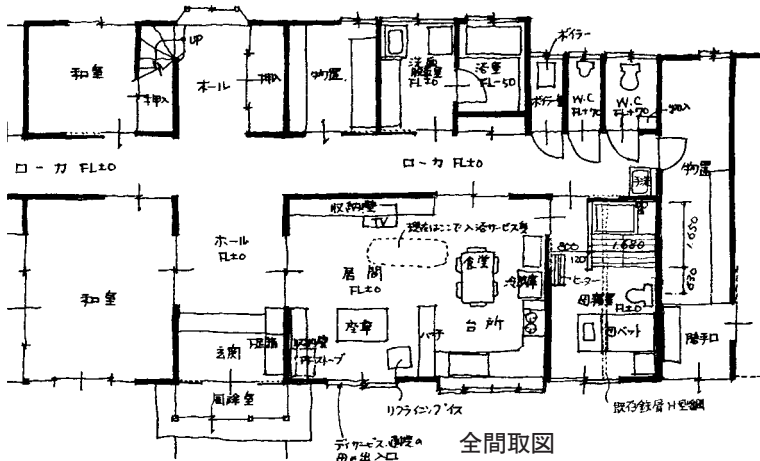
### 住宅改修チーム



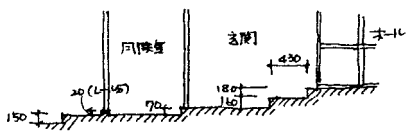
家族をまじえて  
改修チームスタッフ打合せ

性別/年齢	女性 80歳	自立の状況 (共通の項目)	嫁への依存はとても強く、孫夫婦やひ孫の顔を見ることを楽しみにしている。 ・息子は農繁期が終わると晩秋から春雪解けの頃まで、関東方面へ出稼ぎに出るため、介護の全ては嫁の肩にかかっている。 ・対象者身長160cmに対して嫁の身長は149cmと小柄なため、移乗及び移送による負担は大きく、腰痛などの不安がある。 ・不定期ではあるが、かかりつけの病院へ通院する際の移送で、親類の協力と親類の乗用車を利用するが、体の拘縮により苦痛を伴うため、体を動かすことを嫌がる。 ・日常生活全てにおいて介助を要す。 ●寝返り・起き上がり ・全介助 ●衣服の着脱 ・全介助 ●洗面・歯磨き ・全介助 ●トイレ ・全介助(オムツ使用) ●入浴 ・全介助 ●歩行 ・不能 ●移動 屋内 ・全介助 屋外 ・全介助 ●移乗 ・全介助 ●調理・食事 ・全介助(経管栄養) ●家事 ・全介助
世帯構成	本人、息子夫婦の3人家族		
主介護者	嫁		
住宅	木造2階建		
病名	脳内出血		
障害の程度	1級；両下肢機能全廃、左上肢機能全廃、右上肢機能障害		
病歴	平成5年5月 ・脳内出血で倒れ入院 ・リハビリにより車いすでの退院 平成6年 再発 平成10年10月 ・膀胱炎で入院 ・胃ろう造設、経管栄養 1日1,250kcal ・白内障 ・要介護5		
介護度 身体及び介護の状況	・現在はほとんどベット上での生活で、食事の際も起き上がることはしない。 ・医師の診断によると、経口摂食可能とされるが、本人に食べる意欲がなく、介護者は誤嚥への不安が強い。 ・白内障でほとんど見えない状況ではあるが、家族に対しても、訪問者に対しても好意的であり、		

現地調査



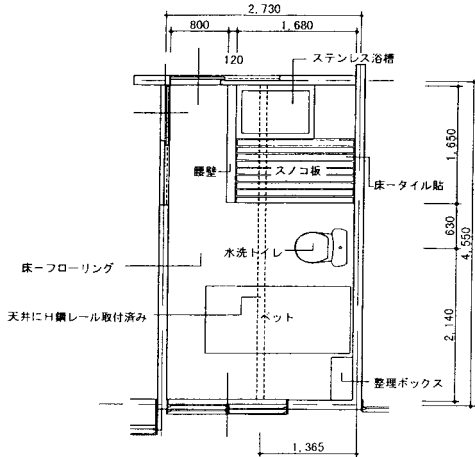
改修チームスタッフ  
現地調査風景



玄関～アプローチ現状図



玄関上り框の段差



要介護者寝室



寝室内で改修スタッフの聞き取り状況



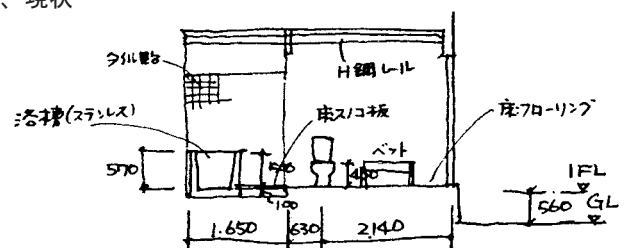
寝室内浴室部分  
新築時に設置したが使用できずに物置化してしまった。



寝室天井部分  
既存鉄骨H型鋼があるが、現状では使用されていない

既存家屋の概要

建築年	平成5年
階・建	木造2階建
工事範囲面積	寝室 12.4㎡
所有形態	自己所有



展開図

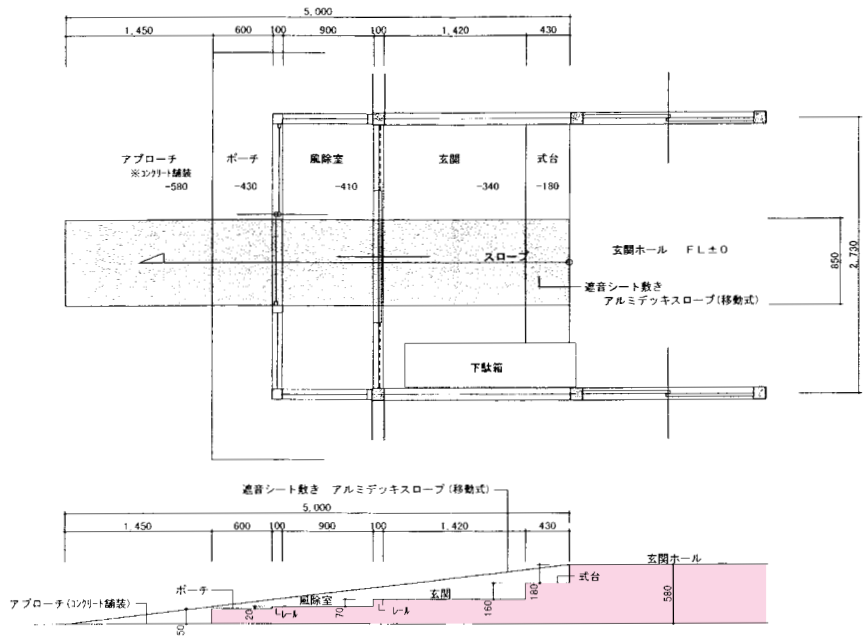
## 住宅改修支援の流れ（スケジュール）

年月日	本人・家族の状況		住宅改修チームの支援内容と動き		
	状況	内容・要望	住宅改修支援チームの動き		内容
平成11年 12月8日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○現在はベッドで寝たきりの状態で、全てにおいて嫁の介助が無ければ生活できない。</li> <li>○息子が冬期関東へ出稼ぎに行くため、普段は嫁と本人の2人暮らしで、介護負担の軽減を希望している。（農繁期には孫の協力を得られる。）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自宅へ入浴させたい。</li> <li>○介護の負担を軽減したい。</li> <li>○移動介助しやすくしたい。</li> </ul>	事前現地訪問調査 ○平成12年4月スタートに向けて、要介護度5と判定されたが、ケアプラン作成を担当するケアマネージャーに対し改修チームへの参加協力の要請に伝えていただかず、初回の現地調査は欠席。	行政（県） CW 施工業者 建築士 コンサル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体、ADL、介護状況等確認</li> <li>・本人・家族の要望確認</li> <li>・住宅、移動状況の確認</li> </ul>
平成12年 1月12日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一時的ではあるが、嫁の母親も同居（実家の嫁の体調不良）痴呆の症状が見られる実の母親と、寝たきりの本人を同時に看なければならぬ現状</li> <li>○今回の事業に対する息子の関心も高く、電話で細かい話し合いの内容を聞き、改修案に対して提案をしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○リクライニングの車椅子を利用できるならば、デイサービスも利用したい。</li> </ul>	改修チーム現地訪問調査 ○再度ケアマネージャーに参加協力を要請するも、再度参加を得られなかった。 ○施工業者は住宅改修の研修を受け工事の必要性や重要性に気づき積極的。	行政（県） 施工業者 建築士 コンサル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・改修プランの打ち合わせ</li> <li>・福祉用具についての説明（現在はベッド上での座位は保てないが、リクライニングの車椅子を利用することでリビングで過ごすことの可能性が出てくる）</li> <li>・今後の進め方</li> <li>・介護保険におけるサービス利用との連携について</li> </ul>
1月25日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○改修プランについて施工業者と何度か電話で話し合う</li> </ul>		改修プラン作成	建築士	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの話し合いを元に改修プラン作成。</li> </ul>
2月5日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○改修プランについて、嫁に説明したが、夫の意見を聞かないと決められないとのことから、数日前位に資料を送付する。</li> <li>○全体の計画は納得していたが、外へ出る手段として、寝室から直接外への案では、出入りの際の雨、風、雪を防ぐため何らかの方法を考えたとして、敷地内の通路が狭くなってしまふことになる。農繁期の動きを考えると、玄関からの出入りを望む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○息子の意見</li> <li>①浴槽位置変更について 嫁が本人を、ベッドから浴槽にスムーズに移動できるのなら一番適切な場所を選んで。</li> <li>②洋式便器撤去 自立で便器に座って使用することは出来なくなったので撤去すべきと思う。</li> <li>③外出時の移動方法 テラス外に段差解消リフトを設置する案は反対。</li> </ul>	改修プラン説明 ○出稼ぎ中の息子との話し合い1月の現地調査を踏まえ、改修プランを作成。その改修プランを送り、内容について確認	施工業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・改修プランの打ち合わせ</li> <li>①浴槽位置変更について 既存浴槽を撤去し、体を伸ばしたまま使用できる洋式バスを採用、高さは介助する嫁の勝手に合わせた高さとする。</li> <li>②洋式便器撤去 既存洋式便器撤去。設備配管隠す。</li> <li>③外出時の移動方法 寝室テラス戸を撤去。3枚引テラス戸新設。風除スペースに段差解消リフト（福祉用具）設置を提案する。</li> </ul>
2月20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○親戚の協力で、鷹巣町の施設見学に出かける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○福祉用具採用について</li> <li>・車いすで休めるなら、是非利用したい。</li> <li>・既存の鉄骨梁を利用しての天井走行リフトが使用できる方法があれば。</li> </ul>	福祉用具の検討 ○これまで検討してきた、福祉用具に直に触れてもらうため、鷹巣町の施設を見学 ○既存鉄骨梁をレールに見立て、農業用トローリーで走行させられることを確信。	施工業者 コンサル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉用具についての説明</li> <li>①ケアタウンたかのす リクライニング車いすの利点、弱点等について聞き、体験してみた。</li> <li>②ウェルフェアテクノハウス 天井走行リフト2タイプと段差解消リフトを実際に操作し、体験してみる。</li> </ul>
2月22日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○福祉用具の見学で感じたことなど、家族に報告。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○改めて、外出するための方法は玄関からスロープで出られる方法で考えて。</li> </ul>	改修プラン作成	施工業者 建築士	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの話し合いと、メーカーとの確認の上、息子の要望を含めてのプラン作成</li> </ul>
3月9日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○当初希望していた内容に加えて、新たな要望が出された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○収納の棚についてオムツや薬、タオル、下着等の収納する棚を手の届く位置に取り付けたい。できるだけ、ベッドの側で立った姿勢で使用できるように。</li> <li>○最終改修プラン及び、工事費用について、納得の上契約。</li> </ul>	最終改修プラン説明 ○これまで再三要請してきた協力を得られなかったケアマネも、担当を変え新たな方が参加。本人のこれまでの症状を熟知した上で、嫁へ、改修チームへのアドバイスは参考になった	ケアマネ 施工業者 建築士 福祉用具 販売業者 メーカー コンサル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの話し合いの内容確認の上、最終改修プランの説明。</li> <li>・工事費用についての説明</li> <li>・ケアマネによる介護方法へのアドバイス。</li> <li>・福祉用具の給付と購入についての説明と確認。</li> </ul>
3月20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○工事着工に向け、本人は寝室を移動。</li> </ul>		改修チーム最終確認	施工業者 販売業者 メーカー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天井走行リフト用吊りシートのモニタリングを行った上で、購入タイプを決定する。</li> </ul>
4月3日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○着工</li> </ul>			ケアマネ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉用具の給付手続きを進める</li> </ul>
4月12日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○中間確認</li> </ul>		○改修プランの内容の確認	建築士 コンサル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天井走行リフト用吊りシートのフィッティングをメーカーに依頼</li> </ul>
4月16日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○完成</li> </ul>			施工業者 建築士	<ul style="list-style-type: none"> <li>・完成写真</li> </ul>
4月24日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○入浴介助サービス利用により、完成した浴槽を試用する。（嫁+ヘルパー1人）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○息子も出稼ぎから戻り、改修工事に対して満足していた。</li> </ul>	完成確認	CW コンサル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・完成状況確認の上、本人及び家族の感想聞き取り</li> </ul>

## 改修プラン



玄関スロープ（アルミ製）すべり止めのシートをひいてある。分割して取り外しが可能で利用する時に設置する



改修後の浴室  
工事途中、壁コーナーに棚を設置したいと要望あり。

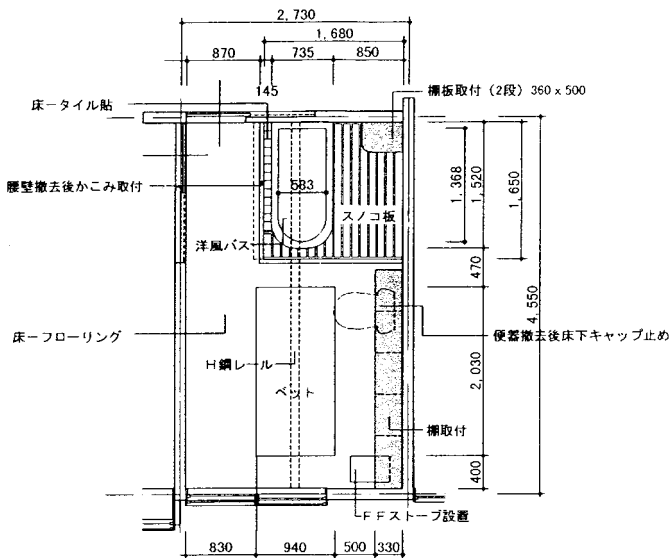
### 車いす選定のための見学会(ケアタウンたかのす)

補助器具、特に車椅子の特徴と使用方法についてのレクチャーを受ける。現在ケアタウンたかのすで利用しているリクライニングの車椅子について。

○利点 普通の車椅子に比べ背もたれが高く、ヘッドレストが高さの調節が出来るようになっており、自分の一番楽な体勢を選択でき、長時間座位を保てない人がベッドまで行かずとも横になることが出来る。介助の必要な人に適している（自走不可）

○欠点 たとえ横になっても寝心地はベッドと同じではないし、長く寝た姿勢のままでは腰が痛くなる（これは車椅子も同じ）

その他、給付で購入した車椅子に装着するだけで、座面の不具合と背もたれのバランスを保つためのパーツがあることも教えてもらう。



既存鉄骨H型鋼を利用し、農業用のトロリーリフターで大役をはたす



## 改修案の整理（福祉用具含む）

区分	課題（ニーズ）	目 標	改修等内容	改修効果	課 題
玄関	・車椅子での移動を可能にし、ショートステイ利用の際の移動をスムーズにしたい。	・車椅子に座り、日中リビングで過ごす ・時には自宅の庭を眺めたり散歩をさせたい。	・身体状況に合ったリクライニング車椅子を取り入れる。（移乗動作のための福祉用具導入） ・ <u>屋外の出入口を緩いスロープとする。</u>	・ショートステイやデイサービスの利用時にはとても <u>楽に移動</u> できた。	・拘縮状態は重く、座位を保つことができない。 ・スロープの設置及び取り外しはお嫁さん(女性)の力では容易にできない。(軽量だが巾が広いため、持ちにくい)
寝室	・現在は月3回の訪問入浴サービスを受けているが、自宅の浴槽で入浴をさせたい。	・寝室に既設の浴槽で入浴させたい。	①浴槽を和式浴槽から洋式浴槽に取り替え、 <u>高さを介護者に合わせる。</u> ②既設の鉄骨梁をレールに、 <u>ホイストを滑車として天井走行用リフトを取付ける。</u> ③既設洋式便器撤去 ④暖房機設置	・室内で入浴の際も、 <u>暖かい環境</u> で使用できる。	・リフトの吊りシートを使用しての入浴方法の工夫。
収納	・毎日のオムツの交換や薬を置いておく棚がほしい。	・ベットの側に、立ったままの姿勢で使いやすい棚。	・ベット脇の壁に木製の <u>棚を造り付け</u> 。（嫁の肩の高さを基準に、オムツ、タオル等をたたんだサイズのスペース確保）	・市販カラーボックスより、高さも奥行きもサイズがピッタリでとても <u>使いやすい</u> 。	

## 本人・家族の感想

- 玄関のスロープに関しては、主人の要望が強くスロープの案を採用したが、女性1人の手では設置できない。当初の計画の通り段差解消リフトにすれば良かったと思っている。
- スロープを設置して負担が減ったのは主人。（それまではダッコで移動していた）
- チームの方たちに参加してもらい、沢山のアイデアを出してもらったことはありがたかった。
- 住宅改修を行った後のいろいろと工夫するという積極的な発想ができるようになった。
- 気の合うケアマネージャーに出会えて良かった。
- 人の縁は大切にしなければと思った。（高齢者総合相談センターに行ったことがこの事業につながった）
- 入浴介助の回数は増えたが介護の負担が増えたとは感じない。ただ、今後の目標は日中に自分の時間が使えるような工夫を考えたい。



## 家族へのアドバイス

2度目のフォローアップにより嫁の報告から分析すると、リフトが使用できるようになり、お嫁さんは今まで本人をできるだけお風呂に入れてあげたいと思っていたため、入浴介助方法のみならず、リフトを上手に使いこなすことができないまま、入浴回数を増やしてしまった。そのため入浴介助に関わる時間が増え、お嫁さん自身自由に使えるはずの時間が使えなくなっていた。はじめから無理をせず少しずつ回数を増やしていくことのほうが、ずっと楽だし安全であると考えます。

今はリフトを使うためのコツをつかみ、月4回の入浴介助も慣れてきた様子で今後は、お嫁さんが介護疲れで倒れてしまうことのないよう、介護者の支援のために在宅介護サービスを視野に入れてのケアプランを組み立てていく必要があるでしょう。（在宅介護サービスの提供に対するご主人の理解を得ることも重要。）

## 改修を通して

現地調査が始まった当初は、福祉関係者の協力を得られず不安があったが、とても信頼できるケアマネとの出会いによって、打ち合わせ期間途中から住宅改修のみならず、在宅介護サービスも含めたトータルプランで進めてもらうことができたことは、家族も改修チームも初めてではあるが、満足行く結果となった。

## 改修チームからのコメント

### ケアマネージャーから

実際に使用してみなければ分からないので、リフトも車椅子についても、ヘルパーと一緒に練習してみることが失敗しないコツかも。

施設でこれまで培ってきた経験をもとに、在宅で暮らす多くの要介護者や、その家族の生活を考えたケアプランを計画しながら、住宅改修も視野に入れて進めていきたい。

### 施工業者から

ご主人とは友人関係で、平成5年に改築工事がかかわり、障害や介護についてあまり情報がなかったために、工事半ばの状態でストップしてしまった。病院からの指導も限られており、どんなに考えてもアイデアは浮かばなかった。

しかし、今回実際のリフト（福祉用具）を見て動かしてみて、こんな使い方ができないか？と思ったことができる方向に進み、やっと完成したと実感できた。今回の工事に関わられて本当に勉強になった。

### 建築士から

本格的な改修工事に参加するのは今回初めてでしたが、いろいろな角度から意見が出され検討しながら、本人や家族が納得いく方法を選択し、試しながら工事を進めるなど、本来の建築工事を凝縮した流れに戸惑いながらも、学ぶものは多かった。

### 福祉用具販売業者から

本人の身体機能に適した福祉用具の提供は理想だが、現実にはとても難しい状況である。今回は、吊りシートのフィッティングもさることながら、リフトそのものを動かすために、鉄骨梁とトロリーを使用するといった専門家が思いもよらない発想で実現することができたことは驚きであった。

